

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 30 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2012～2016

課題番号：24401029

研究課題名(和文)再考・清化(ティンホア)集団

研究課題名(英文)Re-thinking the Thanh Hoa group

研究代表者

八尾 隆生(YAO, Takao)

広島大学・文学研究科・教授

研究者番号：50212270

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,200,000円

研究成果の概要(和文)：本科研は、情報不足で不十分であった1990年代の調査を反省し、現地研究機関と緊密な連絡をとり、統一的計画に基づいた現地調査を行うことを目的とした。成果としては以下の3つがあげられる。黎利集団は清化を出身とするもの様々な出自をもつ者から構成されていた。今科研では集団の最上位クラスの人物に関する新史料により、清化集団概念の有効性と限界を明らかにした。碑文史料の位置考証により、山の民の移動ルート、山と平野を結ぶルート等が明らかになり、清化集団と平野の政権の関係もより明らかになった。現地への貢献として、歴史史料の保存システム構築の試みを藍山博物館やティンホア省科学図書館とともに行った。

研究成果の概要(英文)：Because of the shortage of information on the historical materials on the independence struggle by Le Loi (the founder of the Le dynasty) and his troop (Thanh Hoa group), several researches in 1990's could not give enough results. The aim of this project was to do the field survey on the this group collaborating with local research institutions based on the integrated plan.

We can submit three achievements as below: 1. The homeland of the Thanh Hoa Group was no wonder the Thanh Hoa province, but the origins of them were very various. By using newly discovered materials on several top-ranking persons in this group, we reconfirmed the effectiveness and limit of the concept "Thanh Hoa group". 2. By analyzing the location of related inscriptions, the relation between Thanh Hoa group and the political forces in the plain area became clear. 3. As a contribution to the counterparts, our team tried to construct the preserving system of historical materials with Thanh Hoa provincial library.

研究分野：前近代ヴェトナム史学

キーワード：ティンホア集団 開国功臣 黎朝 家譜 碑文 敕封 タインホア省図書館 史資料現地収集

## 1. 研究開始当初の背景

科研代表者は本国ヴェトナムでの「先に英雄ありき」史観に疑問をもち、1991年以来、40回以上のヴェトナム渡航で何度かタインホア省での現地調査を行い、黎朝(1428-1527年、1533-1789年)を樹立することに貢献した清化集団に属する人物の家譜や碑文史料を収集分析し、2009年にはその一応の成果を単著としてまとめるに至った。

しかし偶然別の科研分担者として2010年夏に黎朝発祥の地藍山遺址を訪問した際、代表者はその変わり様に、いい意味でも悪い意味でも愕然となった。放置されていた遺址は国立公園区域に指定され、考古学調査が一応行われ、それに基づいてかつて存在したはずの太廟その他建築物の復元作業が進行していた。しかしその考証は極めて杜撰で、その結果、ユネスコ世界遺産指定も申請自体が却下されたと聞く。しかし現場で働く省文化局や遺跡管理事務所の努力には敬意をはらうべきであるとも感じた。

例えば、うち捨てられていた碑文などもすべて修復され解読可能となっていたし、清化集団に関する情報も格段と増えていた。藍山遺址に新たに作られた博物館で購入したガイドブック『藍山遺址』には1998年段階で省文化局が把握していた藍山起義関連史跡(功臣の廟や一族の祠堂、戦場跡に残る神社等)83ヶ所が列挙されていたのである。その内、申請者がかつて訪れたのはその3割にも満たない。しかもその中には黎朝成立後冤罪により一族誅殺の悲劇に見舞われた黎察や黎銀など、清化集団最上位クラスの人物の史跡も含まれていた。代表者はこうした重要な情報を欠いたまま著書を出していたのである。

## 2. 研究の目的

上述のごとく、著書出版後も新たな情報が次々ともたらされるという幸運がある一方、現地史料の散佚という危機も迫っている。この現実に鑑み、本科研では、黎朝発祥の地清化(タインホア)省において、黎朝成立に貢献した「清化集団」につき、現地史料調査を行う。そしてその新収史料に基づいて、「清化集団」概念の精緻化、およびその有効性と限界の確認、当時の清化丘陵地区の移動ルート確定による集団形成の過程復元、現地の史料保存事業への貢献、の3点を期待できる研究成果とする。

## 3. 研究の方法

本科研では研究目的が申請者の研究に特化しているため、研究分担者は置かず、今まで調査をともにしてきた研究者や院生を適宜研究協力者として最低3名は確保し、調査の精密性と時間節約につとめた。一方、ヴェトナム側ではハノイ国家大学ヴェトナム学院を交渉窓口とし、タインホア省文化局・省科学図書館・遺跡管理事務所の協力を得て現地調査を行った。調査の対象地はタインホア省内各県の「清化集団」関連史跡で、功臣一族の家譜、碑文史料等を中心として収集作業を行い、同時に得られた史料の由来や族の移動の歴史、支派の存在地などにつきヒアリング調査を行った。調査順は藍山付近、藍山の黎利集団とはもともと別勢力存在の可能性もあった地域、ラオス国境地域の順とし、最終年度は最も清化集団とは関係のないと思われた沿海地域とし、調査漏れがないように努めた。史料整理・分析と並行して、得られた史料は逐次公開し、既に中間報告書を2015年に公開している。

## 4. 研究成果

本科研は1990年代の、情報不足で場当たり的であった調査を反省し、現地研究機関と緊密な連絡をとり、遺漏のない統一的計画に基づいた現地調査を行うことを目的とする。成果としては以下の3つのことがあげられる。

黎利集団は盆地小首長階層、その血縁者、日本やヨーロッパにも似た領主制度下にある被支配民(その中には戦功により黎朝成立後重臣となった者も多い)、近隣からやってきた客将的人物などが混在している。彼らは黎朝成立後すべて黎姓を与えられるなど、血縁擬制によりその凝集性を存続させていたが、黎察や范問等、集団の最上位クラスに属する人物に関する新史料により、清化集団の概念定義を再考し、その有効性と逆に限界を明らかにした。

例えば黎朝は成立後100年で断絶するが、復興のために蜂起し、後期黎朝下で主導権を握ったのも清化を出身とする者たちであった。彼らの中には開国功臣の子孫も含まれているが、この集団を再生「清化集団」と見なすことは可能なのか?一世紀前の集団と構成原理や構成要素は同一なのかという問題については、少なくとも家譜史料による限り、否定的にならざるを得ない。ごく一部の例外を除いて、復興黎朝の中核に参預できた功臣子孫はほとんど存在せず、後期黎朝下では下級武官として列しているにすぎない。

1417~23年まで、黎利の行動範囲は藍山を中心とする清化の丘陵地区に限られていた。先学である山本達郎氏は『安南史研

究 - 元明兩朝の安南征略 - 』(山川出版社、1950年)で、編纂史料を元に同地区の精緻な地名考証を行っている。ヴェトナム人研究者も戦争史の立場からこうした考証に力を注いでいる。これに新収の現地史料に出てくる黎利集團関連地名の考証を加えられることにより、当時のヒトやモノの交通輸送ルートがより鮮明に地図上に復元できるのでないか。衛星地図の閲覧も容易になった今、現在のラオスやカンボディアまで広がるかつての山の民の移動ルート、山と平野を結ぶルート等が明らかになることで、上述の清化集團の形成過程や山の勢力と平野の政権の関係もより明らかになると予想される。

例えば、山岳部各県はムオン族やタイ系諸民族が卓越する地域であるが、漢文碑文の分布によって、黎朝政権の直接的影響圏がどのあたりまでであったのかが、おぼろげながら判明しつつある。

現地への貢献として、観光指向に走りがちな現地主導の「研究」に一定の歯止めをかけるべく、清化省文化局などで提言を行った。英雄や祖先への信仰や崇拜に決して異をとねえるつもりはないが、藍山遺址「復元」にみられる歴史の「創造」は文字史料にも及んでいない。もともと家譜や神勅といった地方文書は歴史事実だけを記すことが目的ではなく、むしろ信仰や崇拜に根ざしたものである。

しかし最近のヴェトナム全土でみられる「族復興運動」の影響で、清化集團に関する地方史料も、収集が進んで現代ヴェトナム語訳「校定版」が作成される一方で、原漢文史料は散佚の危機にさらされている。藍山博物館やティンホア省科学図書館などでそれらを保存するシステムを築くことに貢献することも、20年以上もこの地に学問上関わった申請者の責務であると考えている。

本科研では清化省図書館古典籍室に保存されている漢文文書、碑文拓本などをすべてデジタル化保存し、目録を作成した。内諾はすでにとっているが、2017年夏季に同図書館を訪問してこうした史資料及び目録のインターネット上での公開を正式に申請する予定である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

1. 八尾 隆生、「ヴェトナム黎朝聖宗期の明律受容に関する初步的考察」『史学研究』293、2016年、26-46頁、査読有。
2. 八尾 隆生、「黎朝聖宗の目指したものの15世紀大越ヴェトナムの対外政策」『東

洋史研究』74(1)、2015年、37-75頁、査読有。

3. 八尾 隆生、「黎朝碑文集 黎朝前期箱碑文 (後半)」『広島東洋史学報』19、2015年、43-54頁、査読無。
4. 八尾 隆生、「黎朝碑文集 黎朝前期箱碑文 (前半)」『広島東洋史学報』18、2014年、39-49頁、査読無。
5. 八尾 隆生、「前近代ヴェトナム法試論『国朝刑律』再論」『歴史評論』759、2013年、46-59頁、査読有。
6. 八尾 隆生、「ヴェトナム黎朝前期田地売買等関連文書」『広島東洋史学報』17、2013年、77-84頁、査読無。
7. Yao, Takao, Khởi nghĩa Lam Sơn 藍山 và Lịch sử biên soạn bộ *Lam Sơn Thực lục* 『藍山實録』, 『広島大学大学院文学研究科論集』特輯号、2012年、1-23頁、査読無。
8. Yao, Takao, Khai hoang ruộng đất ở đảo Hà Nam, Yên Hưng 安興 thời Lê sơ - Hình thức khai hoang do dân làng tự nguyện-, 『広島大学大学院文学研究科論集』特輯号、2012年、24-52頁、査読無。
9. Yao, Takao, Vùng Gia Hưng 嘉興 thời Lê Thánh Tông 黎聖宗 - Xã hội vùng trũng-, 『広島大学大学院文学研究科論集』特輯号、2012年、53-73頁、査読無。

研究協力者雑誌論文(計20件)

10. 蓮田 隆志、「近世ベトナムの地方社会における治安活動と下級武人」『環東アジア研究』10、2017年、34-49頁、査読無。
11. 蓮田 隆志、「范篤攷 16世紀ベトナムの新興勢力と中興功臣」『東アジア：歴史と文化』25、2016年、1-17頁、査読無。
12. Yoshikawa, Kazuki, Late Fifteenth-Century Embassies Dispatched between Đại Việt and China: Arrival of the Đại Việt Mission in Yunnan in 1475, In: Thuy Linh Le, Leigh G. Dwyer, Phan Le Ha eds., *Knowledge Journeys & Journeying Knowledge: The 7<sup>th</sup> "Engaging with Vietnam – An Interdisciplinary Dialogue" Conference*, Hanoi, 2016, pp. 279-293、査読無。
13. Yoshikawa, Kazuki, Hai quả chuông đúc tại Phật Sơn (Quảng Đông) được lưu giữ ở Lạng Sơn và Cao Bằng, *Thông báo Hán Nôm học năm 2015*, Hà Nội: Nxb. KHXH, 2016, pp. 968-974、査読無。
14. 蓮田 隆志、「朱印船貿易・日本町関連書籍所載地図ベトナム部分の表記について」『資料学研究』12、2015年、33-53頁、査読無。
15. 蓮田 隆志、「ベント・ティエンの伝える近世ベトナムの地方行政単位」『環東アジア研究』9、2015年、35-50頁、査読無。
16. 吉川 和希、「15世紀後半の中越間における使者往還 1475年ベトナム使節の雲南往来とその背景」『東洋学報』97(4)、

- 2015年、443-477頁、査読有。
17. 孫 来臣(著) 永木 敦子(訳) 蓮田 隆志(監訳)、「明末清初の中越関係:理想、現実、利益、実力:牛軍凱『王室後裔与叛乱者:越南莫氏家族与中国関係研究』によせて」『環東アジア研究』9、2015年、94-132頁、査読無。
  18. 蓮田 隆志、「ミエン集落磨崖碑と成立期のベトナム後期黎朝」『資料学研究』11、2014年、1-14頁、査読無。
  19. 蓮田 隆志、「華麗なる一族」のつくりかた:近世ベトナムにおける族結合形成の一形態」、關尾 史郎(編)『環東アジア地域の歴史と「情報」(新潟大学人文学部研究叢書)』知泉書館、2014年、27-57頁、査読無。
  20. 蓮田 隆志、「文理侯陳公補考」『東アジア:歴史と文化』23、2014年、29-49頁、査読無。
  21. 小野田 恵、「ベトナムにおける北属期考古学研究:古墓研究の歩みと展望」『昭和女子大学大学院生活機構研究科紀要』23、2014年、121-128頁、査読無。
  22. 蓮田 隆志、「ペント・ティエン「アンナン国の歴史」簡紹:情報の流通と保存の観点から」『環東アジア研究センター年報』8、2013年、1-30頁、査読無。
  23. 吉川 和希、「ベトナム黎朝前期「黎希葛碑文」訳注」『広島東洋史学報』18、2014年、24-38頁、査読無。
  24. Momoki, Shiro & Hasuda, Takashi, The Periodization of Southeast Asian History, In: Fujita, Kayoko, Momoki, Shiro and Anthony Reid eds. *Comparison with that of Northeast Asia*, Singapore: ISEAS, 2013, pp. 16-52、査読無。
  25. フィン・トロン・ヒエン、「朱印船時代前後の日越関係」『史学研究』279、2013年、21-46頁、査読有。
  26. フィン・トロン・ヒエン、「1630年代から1700年代までの環シナ海における日越貿易について」『中国四国歴史学地理学協会年報』9、2013年、2-14頁、査読無。

(3) 学会・講演会発表

〔学会発表〕(計4件)

1. Yao, Takao, Quan bản 官版 bộ *Quốc triều Hình luật* 『國朝刑律』 cuối cùng được biên soạn khi nào?, Hội thảo Quốc tế Việt Nam học lần thứ V, 16/12/2016, Hà Nội: Trung tâm Hội nghị Quốc gia, Việt Nam.
2. 八尾隆生、「高校世界史A教科書と「東南アジア史用語集検討会」作成東南アジア史用語リスト」第93回東南アジア学会研究大会、2015年5月31日、松山市(愛媛大学城北キャンパス)
3. 八尾隆生、「ベトナム阮朝の正史『大南寔録』と同書に見られる朱印船貿易時代の

- 日本人」広島大学大学院文学研究科歴史文化学講座主催「地域アカデミー2014」(第22回) 2015年3月14日、広島市(広島県立図書館)。
4. 八尾隆生、「黎朝聖宗の目指した大越ヴェトナムの立ち位置」2013年度広島史学研究会大会東洋史部会、2013年10月27日、東広島市(広島大学大学院文学研究科)。

研究協力者学会発表(計15件)

4. Yoshikawa, Kazuki, Tác dụng đa phương của việc qua lại giữa đoàn sứ bộ nhà Lê và nhà Minh nửa sau thế kỷ XV, Hội thảo Quốc tế Việt Nam học lần thứ V, 16/12/2016, Hà Nội: Trung tâm Hội nghị Quốc gia, Việt Nam.
5. Hasuda, Takashi, The Opening Phase of Japan-Vietnam Diplomacy in the maritime Asian World: Through Introducing a Newly-Discovered letter from Vietnam to 'King of Japan', 3<sup>rd</sup> Congress of the Asian Association of World Historians, May 30<sup>th</sup>, 2015, Singapore: Nanyang Technological University, Singapore.
6. Hasuda, Takashi, Writing Global History from Southeast Asian Perspectives: In Honor of Professor Victor Lieberman's 70<sup>th</sup> Birthday (国際学会、招待講演) December 16<sup>th</sup>, 2015, Osaka: Osaka University.
7. 蓮田 隆志、「ベトナム後期黎朝の地方支配小考:1609年のゲアンでの角倉船難破事件を素材に」、2014年度広島史学研究会大会東洋史部会、2014年10月26日、東広島市(広島大学大学院文学研究科)。
8. 蓮田 隆志、「新発見の日本国王宛書翰にみる黎明期の日越交渉とアジア海域世界」、木浦大 学校島嶼文化研究院 30周年・海域アジア史研究会 20周年記念 共同学会 会議「島と海から見た歴史」、2013年12月2日、大韓民国全羅南道務安郡(木浦大 学校島嶼文化研究院、共催:海域アジア史研究会)。
9. Hasuda, Takashi, Mở đầu ngoại thương Nhật - Việt và hải vực châu Á, qua giới thiệu một bức thư gửi cho "Nhật bản Quốc vương" vừa mới phát hiện, ベトナム・日本学生科学交流ミーティング、2013年9月23日、大阪市(於在大阪ベトナム青年学生協会)。
10. 蓮田 隆志、「海域世界のなかの近世日越通交」、東北学院大学アジア流域文化研究所公開講座「異境・異人のアジア歴史群像」、2013年7月20日、仙台市(東北学院大学)。
11. 蓮田 隆志、「17世紀ベトナムにおける歴史知識と修史について」東南アジア学会第89回研究大会、2013年6月1日、鹿児島市(鹿児島大学郡元キャンパス)。
12. 吉川 和希、「黎朝前期ベトナムの官僚制確立に関する一考察 黎希葛碑文の分析を通して」2013年度中国四国歴史学地

理学協会研究大会東洋史学部会、2013年6月9日、鳴門市（鳴門教育大学）。

13. フイン・トロン・ヒエン、「ベトナムにおける日本銅・銅銭貿易について 17世紀～18世紀中葉を中心にして」、2012年度広島史学研究会大会日本史部会、2012年10月28日、東広島市（広島大学大学院文学研究科）。

14. フイン・トロン・ヒエン、「17世紀後半の環シナ海における日越関係について」、2012年度中国四国歴史学地理学協会研究大会日本史学部会、2012年6月10日、廿日市市（広島経済大学成風館）。

〔図書〕（計1件）

1. 八尾 隆生（編）『再考・タインホア集団』平成24-28年度科学研究費補助金（基盤研究(B)）研究成果中間報告書、広島大学大学院文学研究科、2015年、178頁。

研究協力者図書（計1件）

2. ジョヴァンニ・フィリッポ・デ・マリニ（著）蓮田 隆志（解説）『復刊 トンキン王国の新奇な話』新潟大学人文社会・教育科学系附置環東アジア研究センター、2014年、336頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

八尾 隆生 (Yao, Takao)  
広島大学・大学院文学研究科・教授  
研究者番号：50212270

(2)(3) 該当者なし

(4) 研究協力者（のべ17名）

<平成24年度>

蓮田 隆志 (Hasuda, Takashi)  
新潟大学・人文社会・教育科学系 学系附置環東アジア研究センター・准教授  
研究者番号：20512247

フイン・トロン・ヒエン (Huỳnh Trọng Hiên)  
広島大学・大学院文学研究科・博士課程後期・院生

吉川 和希 (Yoshikawa, Kazuki)  
大阪大学・大学院文学研究科博士前期課程・院生

<平成25年度>

蓮田 隆志（同上）  
フイン・トロン・ヒエン（同上）

西井 美穂 (Nishii, Miho)

広島大学・大学院総合科学研究科・研究員

矢部 祐輔 (Yabe, Yusuke)  
広島大学・文学研究科博士課程前期・院生

<平成26年度>

蓮田 隆志（同上）

フイン・トロン・ヒエン (Huỳnh Trọng Hiên)  
ヴェトナム国家大学ホーチミン市校所属  
人文社会科学大学・日本学部・専任講師

グエン・ヴー・キー (Nguyễn Vũ Kỳ)  
ヴェトナム国家大学ホーチミン市校所属  
人文社会科学大学・日本学部・専任講師

佐野 愛子 (Sano, Aiko)  
明治大学・大学院文学研究科博士課程後期・院生

近藤 美佳 (Kondo, Mika)  
京都大学・大学院人間環境学研究科博士後期課程・院生

<平成27年度>

京樂 真帆子 (Kyouraku, Mahoko)  
滋賀県立大学・人間文化学部地域文化学科・教授

研究者番号：00282260

佐野 愛子（同上）

吉川 和希 (Yoshikawa, Kazuki)  
大阪大学・大学院文学研究科博士後期課程・院生

<平成28年度>

蓮田 隆志（同上）

佐野 愛子（同上）

吉川 和希（同上）